

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 年 月 日

事業所名: 発達支援ルーム
ティンカー・ベル

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	3	2			57	1			グループで活動は少人数、ある程度広さが確保されている。	グループの人数や活動によって部屋の使い分けをしているので、今後もそのようにしたい。
	2 職員の適切な配置	5				57			1	専門知識が豊富な先生が複数人(2~3人)ついてくれる。	継続
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がい者の特性に応じた設備整備	5				58				すっきり見やすく配置されている。	必要に応じて構造化を行う。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	5			清潔であるよう、毎日の掃除を行っている。	58				清潔な空間で、目的や活動内容に合わせて空間を使い分けしていると思う。いつもきれいにされている。	継続
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	5									継続
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	2	2	1							今後検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	5			オンラインでの研修をたくさん受けることができた。						講師を招き、公開講座として外部にも発信した。また、オンラインでの研修に参加して職員間で伝達共有することが出来た。今後も継続する。
適切な支援の提供	1 適切に支援プログラムが作成、公表されているか	5				57	1			何度か保護者勉強会で教わった方針に従って支援がされていると思う。毎回違う内容で、季節に合ったプログラムが設定されている。	継続
	2 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	5			子ども本人からの意見も聞いたり、説明を分かるように伝えたりした。	56	1		1	こちらが気づいてないところまで見てもらい、計画が立てられていると思う。	今後も保護者の希望や子どものニーズなどに寄り添えるよう、丁寧にアセスメントを行う。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	5			かかっている職員、保護者の意見も聞き、目標を立てている。	57	1			適切だと思う。	『5領域』を踏まえ、より具体的な支援内容を考えていく。
	4 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	5									継続
適切な支援の提供(続き)	5 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	5			意識してかかわることや活動の中に取り入れている。	56	1		1	適切に対応してもらっている。	各々満足できるようにモニタリングを丁寧に行う。モニタリングだけでなく、随時保護者の希望や疑問にも対応できる内容を考える
	6 チーム全体での活動プログラムの立案	5			相談して活動内容を決めている。						継続
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	4	1		前年度したことなども振り返りながら、同じ活動でも年齢により目的や狙いを変えている。季節的な物、保育園や幼稚園での活動も考慮して設定している。	54	2		2	毎週子どもが楽しみにしている。	期待やワクワク感を持ってもらえるような活動を考えていく。
	8 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	4	1		長期休みの場合に自由研究や書道なども行った。						継続
	9 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	5			事前の打ちは行いが、欠席などで人数の変化があると、内容を変更することもある。						継続
	10 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	5			記録を取りながら、話を確認するようにしている。						情報を共有し、誰が対応しても大丈夫な形を取っていく。
	11 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	5			お互いの目で確認したことをまとめるようにしている。						簡潔かつ正確にわかりやすく、を心掛け記録を取っていく。
12 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	5									策定会議の効率的な開催を今後も検討していく。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	5									継続
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施										
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備										
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	5			情報提供などは保護者の同意を得て行っている。						保護者の同意、希望により今後も行っていく。
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	4	1		同上。						同上。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	1	4		研修会などがあれば参加を検討している。						専門機関との連携、研修の参加の機会を増やしていきたい。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供		1	4		35	10	5	5		事業の性質上、交流は実施していない。今後もその予定はない。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	1	1	3							事業所発信の行事は行っていない。今後検討したい。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	5				58				説明があり、理解している。	全員の満足が得られるよう、今後も丁寧な説明を心掛ける。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	5				57	1			時間を取って説明してもらっている。	同上。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	3	2		事業所の支援プログラムでインリアルアプローチの理念で支援を行い、保護者にもかかわりの仕方を具体的に伝えている。	46	5	1	5	勉強会で教えてもらっている。	インリアル、ペアレント・プログラムなど、学んだことを療育の活動内でも取り入れているが、『勉強会』としての実施出来ていない。今後年に数回開催日を検討し、発信したい。また、療育内でも保護者勉強会など母子分離で行いたい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	5				57	1			何かあればすぐ相談ができる	活動前後に、様子の確認をしたり、相談を受けたりしているが、その日のうちに解決できない場合は別日にも相談の時間を取っている。今後も保護者のニーズに寄り添い、話をしていきたい。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	5			ひとりひとり、十分な時間ではないが話しをうかがうようにしている。ゆっくり相談したい場合は別日を設定している。	58				子どもに対しても、保護者に対しても必要なことをはっきり伝えてもらえるので、満足している。小さなことでも、助言や意見を言ってくれていると思う。	積極的に相談がない場合も、こちらから声をかけるようにしている。必要場合は別日での相談も案内しており、今後もそうしたい。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		1	4		20	10	7	21	保護者会はないが、利用の日に他のお母さんと話すことができ、うれしく思う。	保護者会はない。年度でグループの変更はほとんどないため、段々保護者間での情報交換や交流が見られている。継続。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	4	1			34	3	1	20	苦情がないので分からない。	苦情があった場合は迅速かつ適切に対応を心掛ける。
	8 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	4	1			58				適切に対応してもらっている。不安なく通うことができている。	保護者の勉強会など検討していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	1	4			26	8	3	20	よくわからない。ホームページは確認していないので分からないが、毎週、次の活動内容を発信されている。	会報の発行はしていない。活動については毎回次週の予定を伝えていく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	5				54	1		2	適切に対応してもらっている。	継続
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	4	1			43	4	1	9	説明書を見たことがある。	継続
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	4	1			33	5	1	18	利用の時には訓練はしなかったのによくわからない。	グループ構成上、全利用者への訓練は実施できないため、2歳児を中心に設定しているが、今年度は年中児のグループでも実施した。今後は年間の実施回数なども検討し、どの時間のどのグループも対応できるように考えたい。
	3 服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況の確認の実施	5			初回のアセスメントの際に聞き取りを行う。						初回のアセスメントで聞き取りを丁寧にしていく。
	4 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	3	2		同上。						必要に応じて主治医との相談をする。
	5 安全管理の徹底	5				48	1		7		遊具、建物の点検、教材の確認など日頃から行う。
	6 家族等との連携を図るため、安全計画に基づく取組内容についての家族等へ周知	3	2			39	2		15	適切に対応してもらっている。	継続
	7 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	5			何かあればすぐヒヤリハットを作成し、職員間で確認。場合によっては保護者・子どもにも『この間こういうことがあったから気をつけようね』と声かけしている。						今後もケガなどの対応だけでなく、ちょっとしたことに関しても日頃からアンテナを張り書類を作成し共有をしていく。
	8 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	5									年度初めに確認し、随時研修に参加したり、研修を行ったりする。継続。
9 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	4	1		新しい個別支援計画の様式より、全員に記載を行っている。						全員の支援計画に記載し説明をしているが、必要な場合は身体拘束に関し確認し同意書をいただくようにしている。	